友人関係をひろげる試み

——ふだん遊ばない子どもと遊ばせる——

清水エミ子

無口で、三学期に入っても進んで口をきこうとせず、聞かれたことに対しても口の中で断片的に答えることしかしないおさむが私に「あの人が呼んでるよ」と知らせて来た。びっくりしたり喜んだりしながらも、だれだろう、きっと他の学級の誰かだろうと思いながら、もう一度「だれが」と聞きなおすと「あのひと」と指で示すその方を見た私は、おさむの話しかけて来たよろこびと入れ違いに、全身に冷汗が走るのを感じたのだ。それはおさむが「あの人」と代名詞で表現した人があまりにも意外な子だったからだ。

私を呼んだあの人は私の学級はもとより、幼稚園中でおそらく名前と顔といずれも知らないものがいないと思われる程の社交家の女の子、せつ子（㊱ちくせつ子）だったのだ。

このせつこはどんな活動にも積極的であり、良いことにも悪いことにもこの子が参加していないことはないといってもよいほどで「せっちゃん」ということばを聞かない日はなく、聞きたくなくても聞こえてくる子である。その上、体も健康で一年間に三日間しか休まなかった子なのだ。

私はしばらく、せつこの所に行くのを忘れておさむの顔をまじまじとみつめてしまった。そしてもう一度おさむに「あの人ってだあれ、なんて言う人なの」と胸の動揺を押えてそっと聞いてみた。そしておさむが思い出してはっきり答えてくれることを心に祈りながらおさむの顔をみまもった。が、彼は「知らない」といともあっさ

り答えてしまったのだ。私は鉄の棒で頭を力いっぱい叩かれた時のように目の前が驚きと悲しみでぼーとかすんでしまい、次のことばがしばらく出なかった。

おそらくこのようなことは、このおさむひとりきりだと思ったが、私は今まで一年間いったい何をしていたのだろう。

・入園以来卒園までどうしたら良い交りができるようになるか、

・だれとでも話したり、話されたりできるようになるか、などを

・いろいろの活動をかりて生活してきたつもりなのに、

・その上おさむのような集団に入れない内向的な子どもには数倍心をつかい、何とか抵抗をなくして、自然に友だちにとけこめるようにいろいろと工夫してきたつもりなのに、そのおさむから三学期に入ってこのような結果を見せられてしまったのだから、私のショックは大きかった。保育者失格の印をつけられてしまい、四十五名の子どもたちの真ん中で私ひとりがきりきりまいしている姿が、いくらふり払ってもふり払っても私をおそって来るのをどうすることもできなかった。悲しんでいるだけではいつまでたっても解決しない。そこできりきりまいのうずの中からどうして抜け出せるかを考えた。そして今からではおそすぎるが、今からでもできるだけのことをしなくてはと気を取りなおし、学級全体の子どもを眺めなおしてみることにした。

・私たち教師がばくぜんと評価していた子どもたちのつき合いの程度を確かめなおさなくてはならない。

・子どもたちの友だちとのつき合いの評価と私たち教師の評価のちがいを客観的に把握しなくてはいけない。

・その結果から卒園まで少ない日数で一番効果のあがる指導をしなくてはならない、と考え次のような試みをした。

◎子どもたちのつきあいの程度を知るために、たっぷり時間をかけてひとりひとり学級でのつき合いの程度を話し合い確かめあった。

（方　法）

お互いに遊んだことも、話したことも手をつないだことも、何にもいっしょにしたことのない人を選ばせた。これはひとりひとりについて行なう。それに対して学級全員がそれを確かめ合う。（話し合いをする）

㈹

A表で①番のふなかたに全然遊んだことのないひとを選ばせる。他の子が「ふなかた君、そのひとと砂場で遊んだじゃない」とか、「お店やの時いっしょにやったよ」などと話し合う。

この話し合い、たしかめ合いを記録し表にして学級全体の状態を把握するようにしたのがA表である。

・この確かめ合いをやってみて

①三学期になると一年保育児でも友だちを意識してつき合っている。②友だちのつき合いの状態も正しくみている。③友だちに対す

A 表　　○つきあいのなかったもの　×不一致でつきあいのなかったもの

		1 ふなかた	2 かしわざき	3 いそやま	4 やすもと	5 はまうち	6 たつざわ	7 ほそがい	8 やまぎし	9 きうち	10 つちや	11 おおくぼ	12 ひらた	13 えびぬま	14 かみながし	15 かみながが	16 いとう	17 なかむら	18 たしろ	19 おのだ	20 ながしま	21 とびた	22 ますだ	23 うちむら	24 あおつか	25 こせき	26 みぞお	27 こやま	28 あらかわ	29 こぐれ	30 このぐち	31 かと	32 あいざわ	33 おくむら	34 こばやし	35 おしざき	36 ちく	37 わだ	38 あさい	39 せきど	40 なかやま	41 ゆ	42 しげまつ	43 さわだ	44 とよだ
1	ふなかた	×							○															○																						
2	かしわざき		×	○																												○				×						○			
3	いそやま		○	×																																									
4	やすもと				×				○		○																									○									
5	はまうち					×			○																					○															
6	たつざわ						×																																						
7	ほそがい							×																																					
8	やまぎし			○	○	×	×	×	×		○					○	○	○								○			○	○		○			○	○				○				○	○
9	きうち									×																																			
10	つちや			○					○		×													○						○		○			○		○								
11	おおくぼ											×																																	
12	ひらた												×															○				○													
13	えびぬま													×																															
14	かみながし					○									×		○																												
15	かみながが								○							×	○													○						○									○
16	いとう								○							○	×	○												○						○									
17	なかむら	○																×	○							○						×			×	×					×				
18	たしろ																		×																										
19	おのだ																			×																									
20	ながしま									×								○			×											×				×				×			×		×
21	とびた																					×																							
22	ますだ																						×									×				×							×		×
23	うちむら	○									○					○								×						○		○				○				○		○			○
24	あおつか	×																							×																					
25	こせき								○																	×																				
26	みぞお																										×																		
27	こやま												○															×																		
28	あらかわ								○																				×																
29	こぐれ					○			○		○					○	○							○						×															
30	このぐち																														×														
31	かと		○			×			○	×	○		○				×				×	×		○								×													
32	あいざわ																																×												
33	おくむら							×							×												×							×											
34	こばやし					×			○		○																								×										
35	おしざき			○	○				○	○					○	○	○							○											×	×				×					
36	ちく										○																										×								
37	わだ																																					×							
38	あさい							×											×																				×						
39	せきど								○								○							○																×					
40	なかやま																																								×				
41	ゆ		○																					○																		×			
42	しげまつ																			○																							×		
43	さわだ								○																																			×	
44	とよだ								○							○			○																										×

る好みが思ったよりはっきり分化していることなどがわかった。

そこで他の学級にもはじをしのんでこのできごとを話し、いっしょに確かめあってみることをよびかけた。このことで、クラスの傾向や年令差がわかったら、今後よい手がかりになると思ったのである。

②つき合いの少ないものを何かの活動で結びつけてみたいと思い、電話作りの活動を通して遊んでみた。

・ふたりでひとつのものを作って遊んでみるために（どうしても協力し合わないと一つのものが完成しない活動であり、その協力のしかたがあまりむりがないもの）と考えて電話ごっこを選んだ。まずひとつずつあまり交りがなくても製作できることから（受話器を一本の糸でつなげてひとつにして遊べるので）これを選んだ

次にその結果いくつかの具体的な事がらを紹介してみよう。

(1) 全体的な傾向として

(イ) 表Aでもわかるように男児、女児の違いがはっきりしていた。

男児

つき合いの悪いものには、男児では男児どおしでもつき合いが悪いものがあり、それに加えて女児に対してのつき合いの悪いものが多くある。（男で男児とのつき合いの悪いものは女児にもつき合いが悪い）

女児

つき合いが悪い者は男児とのつき合いが悪いのであって、特定の原因のあるものをのぞいては全員が女児同志ならつき合っていることがわかった。

この結果をみて私は保育の場での幼児のつき合いの広さと深さにぎもんを感じてきた。それは、

・この表にはつき合いの広いものだけがでて、つき合いの深さは表われない。A表㊱ちくせつ子や⑱たしろのように浅く広くつき合う子がめだち、また、つき合いのかずが少なくても深くつき合っている児がある。

(ロ) 教師のつき合いの評価と幼児の評価の一致したものと不一致のものとは、男児女児ともに同じ傾向であった。

◎教師からみてつき合いがよいであろうと思われる子（つき合っていると思っていた子）がつき合いが悪かったのは男児も女児も同様に

・つき合いの程度が浅く相手に認められにくい子たちのようだ。（A表20ながしま、15かみなが、29こぐれ、44とよだ）

・身体を使わず知的な活動を好む子（A表　10つちや、22ますだ）

◎教師から見てつき合いが悪いであろうと思われる子が非常によくつき合っていた。

・ひとつひとつの活動は何をやってもへまばかりしているがこだわらない子。

・みんなとの約束を破りがちであるが物事にこだわらずいつでもけろりとしている子（一口にいって子どもらしいにくめない子）（A表3いそやま、12ひろた、28あらかわ、42しげまつ）

(ハ) つき合いの悪さの原因と思われるものに男女差があるものとないものがある。

・差のないもの

・自分ひとりで遊ぶのが好きな子

・家庭環境に問題が認められる子（両親が職を持っている・片親特に母親だけの子・両親別居中の子・一間だけの生活をしている子）

・体が弱く休みがちな子（A表　10なかむら、31かと）

・友だちを選ぶ子（好き嫌いのはげしい子）

・生活全体が無気力な子

・差のあるもの

男児

・これといってとり立てる原因は認められないが、他人から相手にされない子（きらわれもの）
・自意識の強い子（おとなの前だけのよい子）、他の子の欠点をあばく子
・幼稚なためけんか早い子
・つき合い方を知らない子

女児

・内向的で意地っぱりの子（外見おとなしく見えてきかない子）
・交りが浅く表面的なため相手に認められない子（性格がさっぱりしているため、次々につき合いを変えていく子）
・つき合いの不一致の場合

本人はつき合ったと思っていても、相手につき合ったことが認められず、つき合わないといわれている不一致の子は、女児に多いようだ。その原因と思われる事がらは、すべての行動に節度がなく、のらりくらりと行動しているもの同志であるようだ（性格も行動も似たもの同志のようだ）。（㉛かと⑳ながしま㊴せきど㉟おしざき）

この不一致の子どもたちをみて、相手に自分を認めさせるチャンスの必要性と行動の節度の大切さをみせつけられ、これを養うための指導のむずかしさと大切さを今更のように感じた。

(2)社交的な子が非社交的な子とつき合わない場合

例(イ)　①ふなかたが⑧やまぎし、⑬うちむらとつき合わない（A表）

①のふなかたは創意豊かな子で自分の創意に合ったあそびに必要な友だちとやや衝動的につき合う。時々脱線するほどの子であるので明るいさっぱりした子とのつき合いが多い。そのため、⑧⑬のように何をやるのもテンポがおそくのんびりしていたり、口をきくことを好まない子とのつき合いをいやがり、自分からさけていた。

(ロ)　⑭かみながが⑤はまうち、⑯いとう、㉙こぐれとつき合わない（A表）

⑭のかみながは体力が秀れていて活動的なあそびを好み、一分のすきなくまめに体を動かしている子である。我が強く、遊びの途中よくぶつかり争いをおこす。言い出したらテコでも動かない芯の強さのある子なので、⑤⑯㉙のように外見はおとなしく、ややのろまのようにみえるが芯が強い子とは反撥し合ってつき合えなかったようだ　子どもでも似たもの同志がつき合いにくいことがこのケースでもわかった。

(3)非社交的な子が社交的な子とつき合わない場合（A表）

(イ)　②かしわざきは家庭的環境の原因のため、ひとりで描いたり、製作したりすることを好み、女児的な行動のし方をする子で絵本をみて物語りの中にひたって楽しんでいる子であるので、③のような活動的な落ち着きのない遊び方をする子は自分からさけていた。（性格的に全く合わないもの同志のようだった）

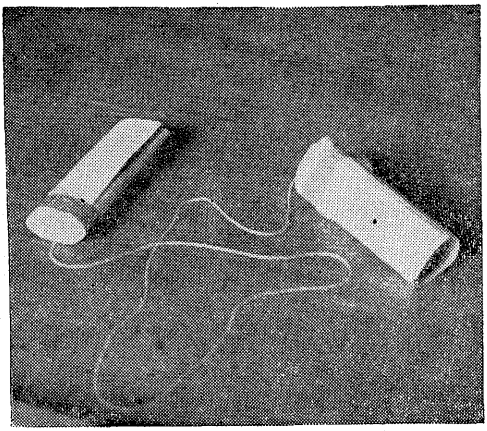
(ロ)　㊱おしざきが③いそやま、⑨きうち、⑭かみながとつき合わな

い場合

㉟おしざきはひとり子のため頭でっかちで知的な活動を好み、体を動かすことを嫌う子で、人のいない所を探してひとりあそびをしている子のため③⑨⑭のような口より行動の方が早い子はおそろしくて近よれないらしい。テンポが全く合わないしあそばない原因をはっきり「おっかないからいや」と言っているし、電話作りの時にいっしょにやるように言ったがこわいからだめと逃げてしまった。

㋩ ⑰なかむらが⑱たしろ、㉕こせきとつき合わない場合（A表）

⑰なかむらは末子のわがままを全身にそなえている子で、どんなことも思いのまま行動したがる子で、それを集団の約束のためにはばまれると神経質な行動が目立ち、発熱したりして休園してしまう子。行動はうしのようにのろく、まわりのことは目に入らないため⑱㉕のように手あたり次第仲間に入れたり、はいったりして遊べる子とはテンポが合わないらしい。⑱がよく「おいで」とかいっしょのグループになろうとするが一言のもとに⑰から「いや」と言われてしまっていた。



(4)社交的な子が社交的な子とつき合わない場合

A表にもいずれの学級にもいなかった。

このことは、幼児のつき合いにおいてみのがせない特徴だと思われる。

(5)非社交的な子が非社交的な子とつき合わない場合

㋑ ⑩つちやが④やすもと、⑧やまぎし、㉙こぐれ、㉓うちむらとつき合わない場合（A表）

⑩つちやは体を使って遊ぶことを嫌い、知的な頭だけのあそびをひとりですることを好む子である。図鑑をみて（一時間でもつづく）楽しんだり空想画をひとりごとしながら描くことを好む子で、ポケットに手を入れて他の子の遊びを眺めている。我が強いため④⑧㉙のようにひとりあそびを楽しみ我の強い子とは反撥し合ってあそべないらしい。㉓はただのろまで我は強くなく、人の言うなりになる子なのだが、⑩とは性格的・体質的に合わないらしい。

（⑩のそばに㉓がくると⑩はこずいたりへんな顔をしたりして近よせない）

㋺ ⑧やまぎしが⑯いとう、⑰なかむら、㊹とよだ、㉟おしざき

とつき合わない場合（A表）

⑨やまぎしは運動能力も劣り、描いたり作ったりすることをひとりですることを好む子である。その上我が強く、ごうじょう張りであるため、自分の思いのままに行動する傾向がある。⑯⑰㉟㊹のように、ひとりあそびを好み、我が強く、自分の思いのままに行動したがる傾向の子とはつき合いのチャンスができなかったようだ。

以上いくつかの具体的なケースを眺めたが、この結果は

・つき合いの悪いもの同志をつき合わせるように仕向けたほうがよいのか？

・そのままそっとしておいて子どもに必要感が生まれるまでそっとしてほうっておくほうがよいのか？

ということが非常にぎもんになってきた。そこで私は抵抗のない活動でこれを確かめてみることにした。そこでいろいろ考えたがデンワ作りをしてデンワごっこをしてあそんでみてはと考えた。

(6)デンワごっこ

・この活動を選んだ理由

つき合いのないもの同志がはじめからいっしょに活動してもあまり抵抗にならずにひとつのものが作れるもので（受話器をひとりでひとつずつつくり後でつなげてあそぶだけなので）ふたりでなければあそべないものを考えた。その点デンワあそびはつき合いのないもの同志のつき合いのチャンスにはよい教材だと考えた。また、つき合いのないもの同志がつき合いをどのようにはじめるかを観察し、今後の指針にするのにも適当ではないかと考えた。（デンワは男女共に差がなく好まれるあそびである）

◎方法

白ボール　縦十五センチ　横十センチの長方形一枚と、十センチの正方形に切ったハトロン紙、ひご竹、マッチ棒、セロテープ、ホッチキス、のり、クレヨン、ビニールテープ、マヂック、木綿糸、フトンのとじ針、空箱（キャラメル・マーブル）など用意して自由にふたりで作れるようにした。

◎デンワ作りの相手の選び方

・社交的な子と非社交的な子のつき合いの悪いもの同志

・非社交的な子と非社交的な子のつき合いの悪いもの同志

・つき合いの良い子でもあまりつき合っていないもの同志

・つき合いがぎこちないもの同志

などを組み合せてデンワ作りをした。

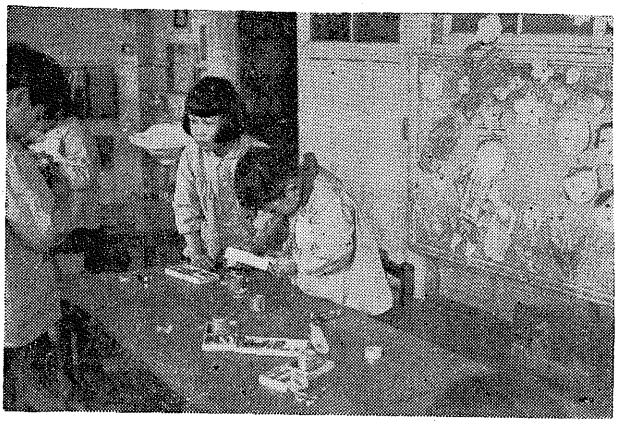
◎活動の中で目立ったものを二～三紹介してみよう。

例(1)　社交的な①ふなかた（男）と非社交的な⑧やまぎし（男）を組合せた場合

＜はじめ＞

①ふなかたは材料をふたりで取りに行くように言うと「うん、だけどぼく⑭かみながくんとやりたいなあーだめ」というので「今日

はね、今まで遊んだことのないお友だちと作りましょうね」とだけ言った。すると「⑧やまぎしくんのぶんだもの、はやくしなよ」と⑧の顔もみずに言い材料を取ってあげ自分の席につれていった。



＜製作中＞

⑧も製作は好きであるため①の隣に座ってだまって作っている。①もだまって作っていたが時々遠くのなかよし⑭の方に向って「できた」とか「ぼくの丸型だよ⑭ちゃんのは」と声をかけていたが、①と⑧とのことばのやりとりはなかった。①ができあがってもまだ⑧はハトロン紙がはってなくデンワの外側をていねいにクレヨンで絵を描いていた。すると①が⑧に向って「⑧ちゃん、はやくやりなよ、紙はっちゃいな、押えてあげるから」と少しいらいらしながら言ってハトロン紙を⑧のデンワの筒に持っていった。⑧は黙ってそれに糊をつけてはった。すると①はだまってビニールテープを切って上からグルリとまいた。次に糸を針に通して⑧に「そっと押えていなよ」ともたせ、自分の受話器を取ってから針を受け取ってさし込み針を⑧に渡して「つなげなそっと」と言う。⑧は無言で受けとり針をバラピンにさしたがとめられない。まっ赤な顔になって「できないとめて」とやっと①に口をきいた。⑧がマッチ棒に糸をゆわきつけてあげ、これでデンワができあがった。

＜あそび＞

いよいよふたりができたデンワであそぶ段になったがふたりとも何も言わないで口に当てているだけだった。しばらくして①が⑧に「ちょっとかして」と言ってデンワを取りあげた。そして⑭の所にいってみみに当ててしゃべっていた。⑭が「ビンビンして変な声で聞こえるよ、ほんもののデンワみたいよ」といってふたりで代る代る話していたので私が⑧に「ちょっと返して」と言ってくるようにし向けたがだめだったので私が①に「⑧とこんど話してごらん」と言うとしぶしぶもどってきたが「もしもし、もしもし」のくり返しで話題はなかった。

＜活動のあと＞　⑧の母親から、家にかえって①の口まねをして電話ごっこをしたり、父親に①に手伝ってもらった話をしていたという報告があった。

①は卒園の時幼稚園のおもいでを話し合った時、「⑧ちゃんとデ

ンワ作ってもしもししか言わないでおかしくて笑った」と話してくれた。

この①と⑧の組合せは社交的な①の働きかけで⑧の非社交的な子が活動できるようになった例であるが、①が⑧のテンポを早めさせたり⑧のテンポに合わせたりしていた努力のようすはみのがせないし①のいらいらが手にとるように見え、せっかちの心を相手によって押えることを学んだ良い教材であった。⑧が思わずのテンポにあおられて「できない」

と口ばしったあの経験は⑧にとってきちょうだと思う。

例(2)　非社交的な㉟おしざき（女）と社交的な③いそやま（男）と組合せた場合

＜はじめに＞　「ふたりでデンワ作ってみない」と言うと「こわいからいや　だめなの」とあとずさりしてしまった。③はボカンとして㉟をみていたが、「ぼくなかさないよ、やろう」と近よって行った。③は描いたり作ったりすることが不得手のため、描いたり作ったりの得手の㉟にたよっていっしょにデンワ作りがしたかったので、進んで㉟に近づいて行こうとし、ふたり分の材料を手に持って私の助けを求めるように顔を見上げたのだ。「㉟ちゃん③ちゃんがいっしょに組みしてちょうだいってたのんでいるけれど……いっしょにやって教えてあげてちょうだいよ」と言ってみた。㉟は私をしぶしぶ見上げてうなずいたので③に「やさしくおそわってね　㉟ちゃん、ぼくたちが乱暴に聞いたり、やったりするのが嫌いなんですって」とだけ言ってその場を離れ、遠くから見ていた。

＜製作中＞　③は㉟にいちいち「これこうやるの？　それから」と聞いている。㉟は、それに対して口数少く「とめるの」とか「セロテープではりな」など教えていた。受話器ができあがって糸でつなげる時、㉟が③に「そっと持ってなよ」と話していた。

＜あそび＞　㉟が手際よく仕上げたデンワを、③は両手に持って仙よしの所にとんで行って、耳に当てて話して聞かせていた。

㉟はひとりで道具をしまつして、まわりの子どもの作るのを眺めていたので、私が③に「㉟の分もあるのよ」と言うと、③はあわてて㉟の所にもどって話そうとしたが、㉟のテンポにどうしても合わず、③はデンワを㉟の所において、仲よしのいるグループに行って、いっしょに話しをさせてもらっていた。しばらくして㉟に「ちょっとかして」とデンワをかりて仲よしのいるグループにとんでいった。

③のなかよしの友だちは自分の組んだ子のと③のと両耳に受話器を当てて困っていた。

＜活動のあと＞ 帰る時㉟はだまってデンワを③に渡していた。③はびっくりして㉟をみながら「あしたまた持ってくるね」と言ってかばんに入れ、「㉟ちゃんさようなら」とあいさつをしていた。

よく日③は㉟のくるのを待ってデンワで話していた。㉟は昨日と変って「もしもし③ちゃんですか」とだけは話せるようになっていた。この組合せは、非社交的な㉟の製作的なリードで社交的な③がついていったのだが、製作が終ってしまうとバラバラになってしまっているし、㉟の非社交的な子が社交的な子たちを感覚的に「こわい」と言っていることなどから、㉟のような非社交的な子は無理な交らせをすると、かえってマイナスになってしまうと思われる。同時に、非社交的な子の得意とするものと、それを得意としないもの（③のように）とを組み合せ、ゆっくり時間をかければ、㉟と③のように両方で交るチャンスを見つけてくることがわかった。

例(3) 非社交的な⑩つちや（男）と非社交的な④やすもと（男）と組み合せた場合

＜はじめに＞ ⑩に私が「君は④さんといっしょにしましょうね」と言うと、⑩は「ぼくひとりでやる」と応じなかったし、④も「ぼくもそんなの簡単、ひとりでふたり分やれる」と頑張ったが、材料が足りなくなるし、今まで遊んだことのない人と作る日なのだと話してやらせた。⑩は「ちえ、めんどうくさいな、ひとりのがいいのに」と言いながら材料を取りに行った。④もあとに続いていた。

＜製作中＞ ⑩は④に「きちんとやれよ、ほらぼくのと同じくらいの太さにしなよ」と思ったよりおせっかいをやいていた。④も「このくらい？ バラピン紙はどの色のテープではるの」と⑩に聞いたりしていたし「ちょっと⑩ちゃん持ってて、ここピンとしなきゃあ」と④が⑩をリードしたり、「④ちゃん、マヂックでまわり飾ろうか」と⑩が話しかけたり、今までつき合いがなかったのが不思議なほどスムーズになっていた。

＜あそび＞ ⑩が④に「デンワって家の中にあるものだから、積木で家作ろうぜ」と呼びかけ、④と⑩で積木の家を作り、④がおすしや、⑩がおそばやになって「もしもし、天どん三こ持って来て下さい、大急ぎでね」とか、「おすし五人まい、大通りを曲った⑩つちやす」とやっていた。

＜活動のあと＞　ふたりがいっしょに絵をかいたり、図鑑を見ていることがよくあったし、誕生会の時、ふたりで合唱したのには驚いた。

この組合せはふたりともに我の強い者なので、私はさぞ反撥し合ってうまくゆかないのではないかと思ったが、思いがけずスムーズに交っていったのには驚いた。これは同じ非社交性同志だったので、効果的だったのではないかと思われる。

これでもわかるように、非社交的なもの同志のつき合いの悪さは、つき合うチャンスがつかめなかったり、そのキッカケを作る努力をしない者同志のようである。

以上、つき合いの程度をたしかめ、つき合いの悪い者同志の原因や、状態をさぐってみて、前にのべたように、

(1)・男女差があったこと
・教師の認識と実際との不一致
・子ども同志の認識の不一致　があることがわかったし、

(2)　社交的な子が非社交的な子とつき合わない場合は、
・活動のテンポが合わない
・外見おとなしく見えて芯の強さのある子は反撥し合う
・自意識が強く自分より劣っているものをばかにする　ことが目立った。

(3)　非社交的な子が、社交的な子とつき合わない場合は
・性格的に合わず両方でさけている
・行動のテンポが合わない（こわがる）
・わがままで、他人を意識しない
・能力に差があるためあそびに入っていけないことが目立った。

(4)　社交的な子同志はつき合いの悪い者はいなかった。

(5)　非社交的な子が非社交的な子とつき合えない場合
・外見おとなしくみえるが我が強いため反撥し合う
・性格的にひとり遊びが好きなため
・性格的、体質的に合わない同志
・他人を意識しない
・つき合いのチャンスをほしがらないことが目立った。

◎このように教師の頭だけでのつき合いの程度の認識では非常にまちがいが多いので、入園当初から学期に一度位ずつ、全員のつき合い程度を子どもといっしょにたしかめていかないと、私の学級のように卒園まぎわにあわててもまに合わなくなる。

このたしかめをしてから卒園の日まで「先生、ぼくこのひとともあそんだよ」とか「あたし、あのひとすきだったよ、なかよくなったの」などのことばをしばしばきいた。自分たちのたしかめ合いが、ひとりひとりのものになったことのあらわれだと思う。